

# “かもや堂” リニューアル・オープン

# 3月19日(土)



この町並が変わる、オープンをうご期待！



藤里の暮らしをゆっくりじゅっくり楽しむ情報紙

《発行》  
地域おこし協力隊  
@鳥谷場仮事務所  
藤琴字家の後17-8

## みんなで作るのが これからの“かもや堂”

現在、緑色の工事用シートに包まれている、役場前の建物……「かもや堂」は、3月19日(土)にリニューアル・オープンの予定です。

新しくなった「かもや堂」は、いろいろな使い方ができて、集まったのしくすごせる、気軽に立ち寄れる、近くを通っただけでも「あ、何かやっているな」と、たのしく感じるような場所にしていけるといいのかなと思います。

そして、その片隅には……(憶えていただけているでしょうか?)、そう、地域おこし協力隊の事務所スペースが戻ってくる予定です！「いとく」「市日」「役場」のついでにでも立ち寄っていただきやすい、藤里繁華街ど真ん中の好立地。「かもや堂」でのイベントに人手が足りないときにも、猫の手くらいはお役に立ちます。

**料理** **木工教室** **ママ会** **カフェ** **着付け & お茶** **フラワーアレンジメント** **切り絵** **コンサート** **読書会** **羊毛フェルト** **協力隊オフィス**

**2階**  
2階は、これまでの構造を生かした和室2部屋。小さなお子さんにも良さそうです。ガラス張りで外から見られるのが恥ずかしいときにもいいかも!?

**1階**  
1階は、ガラス張りの開放的なスペース。時計台の方にも開けた入口や、調理機能のあるカウンターキッチンなど、様々な使い方ができそうです!

「かもや食堂」で使われていたイス。何杯の馬中がこの上で食されてきたのでしょうか?

## 使い方の提案をする オープニングイベント

3月19日(土)～21日(月・祝)の3日間は、オープニングイベントとして企画が準備されています。「かもや食堂」の馬中(馬肉中華)限定復活をはじめ、様々なイベントは別配布のチラシを要チェック! です。

これからのいろいろな使い方が考えられるNew「かもや堂」。3日間のオープニングイベントは、今後の活用の仕方を提案するものになっているとのこと。「難しいこと考えるのはちょっと……」という方も、まずはたのしみに来てみませんか?

## 石橋談義

▼昨年10月の国勢調査の速報が発表され、秋田県は全国で最大の減少率となった。その秋田県で最小阿仁村がトップ、藤里町はそれに続いた。第1回(大正9年実施)の調査では藤琴、粕毛両村の合計人口が6797人、今年1月末現在では3538人。この95年間で3259人も減少した▼それでも町に活気を呼び寄せようと、白神マラソン、けつじより大会、ほら吹き大会、咲羊祭など若者中心に多種のイベントが開催されているのは喜ばしいことだ。しかし、高齢化が進むなかで、今後の継続性など多少の心配もある▼かつて集

落の行事等が長続きた背景には、集落や町内会などの小組織の基盤確立がしっかりし、住民総ぐるみで取り組んでいたことがあ。現在はその組織も形骸化し、住民選出の自治会長等は極く少数で、ほとんどは町の連絡員が兼ねている。これでは地域づくりの自主性や横のつながりが退化しても当然だ▼十数年前、筆者がドイツを旅したとき、村のホテルに50人以上の農家の人たちが集まり、夕食会を開いていた。昔ながらの我が町の「無尽講」によく似た情景である。通訳によれば毎週のように自治会の人たちが集まり、こうして話し合う習慣があるという。それをみて村づくりの原点はこれだとハッと思ったのだが。(F)

## 第2回は、聞き書きトーク開催!

とじこじ編集会議

こぢんまりと開催した、第1回「とじこじ」意見交換会。「こんな記事読みたい」というご意見をいただき、ありがとうございました。

★「こんな記事読みたい」の一部  
町外(東京、地方、海外)にいる藤里出身者の聞き書き/藤里のみりよく/職人の記事/昔、何処に何屋があったか/スキー場/屋号特集/神社の続き/大学生等とコラボ/家庭料理/笑える読み物/辛口批評コーナー...

毎月どうしようか悩んでいるので、とても参考になりました。2回目は、これまで聞き書きに登場して下さったあの方々から、その後の感想・評判・反響などのお話を伺うトーク会を開催します。ここだけの話が出るかも!?

第2回は、New オープンの“かもや堂”で  
3月20日(日) 17時～18時です。



♪台所の油が凝固しない気温になってきました。使うたびに湯せんするのがめんどろだったので嬉しいです。いい凝固対策はあるのでしょうか?

聞き書き 第11回

農家

大沢・菊地昇一さん

古代米、  
おいしいよ！



写真：大沢だるまっこ祭りより。

藤里町地域おこし協力隊  
卒業のご挨拶

私布川は、3月末にて、地域おこし協力隊を卒業させていただくことになりました。中通地区をはじめ、町の皆様には本当にお世話になり、ありがとうございました。

まだまだ藤里町ワッショイな気持ちも、道半ばな取り組みもありますが、見えてきたやりたい事と将来を考えつつ、高石沢の暮らしも継続できたらと思っています。

引き続き、山や川や畑やお祭りで、宜しくお願いいたします。

★中通事務所開放日★

古い家見てみたい、の声を時々いただきます。お気軽にお立ち寄り下さい。3/25(金)～27(日) 14:00～17:00 布川英利子

おもしろいなって思ったら、始めるんだ。



リンドウ、良いよ。ずっと大沢に住んでる。神社の奥が、うちのリンドウ畑だ。家がもともと農家だったので、農業やろうと思ったときに、県からのプッシュで藤里町もリンドウやらないかっていう話があったの。最初に鳥海町を視察したときに、向こうの農家の奥さんたちがものすごくイキキキと話してくれた。「出稼ぎもやめた。間に合う。リンドウ良いよ」。視察には14、15人も行ったんだけど、始めたのは俺も入れて3人だった。うちらが始めて7年になる。リンドウは仏花なので、お盆と彼岸。お盆前の時期だと高く売れる。それを過ぎてしまうと値段は十分の一以下にもなる。8月に入ると、お盆前までの期間で年間の三分の二を稼ぐ。9月の彼岸で残り三分の一。短期間の勝負なんだよな。お天道さま相手なので、ある意味ばくちだ。早く咲いてほしいなと思って咲かないし、まだ咲くなっと思って咲くときもある。まったく思ったようにはならない。

最初植えた株を新しい世代に移し替えるところまで持っていて、初めてリンドウは成功と言えるかな。町でリンドウやる人、増えないな。3人から6人で倍にはなっただけ。もともと稲作農家なので、田んぼもやってる。会社に勤めてるときも田んぼはやってた。稲作だけだと経営は厳しくて、リンドウでそこをカバーしている。皮がぱりんの雑穀・古代米。雑穀と古代米、産直で売ってるんだ。白米に混ぜて炊く。黒い古代米は色が出るので、赤飯にしたり。ポリフェノールとか入ってる。毎日食べてて、病気になるってことは健康にいいことかな？ だまっこ屋さん赤いだまっこにも、使ってる。給食センターでもたまに買ってくれる。産直や森のえきに出していると、何週間かに1回は供給しないと、必ずなくなる。何人かリピーターがいるみたいだよ。宣伝してないけど。古代米は、会社に勤めてると



食べ方の紹介とともに産直に並ぶ、昇一さんの雑穀、古代米(黒・赤)。

きに始めたんだ。会社の社長が「おまえもやってみろ」って言って、苗をもらった。食感おもしろいじゃない、こいつ。皮がこう、ぱりんと破ける感じがする。色も出る。最初は黒い古代米だけだったけど、おもしろいなと思って雑穀米も始めた。他の趣味は、読書かな。推理小説大好き。冬場は2週間に4、5冊は買う。シーズン中は稲とリンドウしか見てないので、息抜きでオフシーズンに読む。本の中っていろんな場面があって、SFだったりすれば未来に行ったり、過去に戻ったりっておもしろい。手元の最後の1冊が残り少なくなると「やっべー本なくなる」と思って、読み終わる前に次の本買って来たくなる。

羊毛を地域のものにしたい。この前、藤里で開いた羊毛フェルト教室。個人的にはやってよかったなあとと思う。来年もやるとすれば、もう少し広く知らせたい。楽しかった。羊毛フェルトを始めたのは、町にあるものを活用できればいいなと思っただ。何年前かに羊毛から糸を紡いだ人たちがいたらいいけど、加工とかにお金かかりすぎて廃れてしまったそう。自分でやって思うけど、きれいにしたり、量産するまでつ



大野岱牧場の羊毛で作った、サフォーク羊のマスコット。

とんじこんじ抄

「話す」とは「考える」という言葉に語源があるそうである。「とじこじ」暮らしには、「藤里は人少ないねえ」と言われても、自分たちのぶれない軸、価値観があればいいと感じる。価値観はどうやって作ればいいのか。答えは簡単、おしゃべりすればいいのである。かもや堂ができる。これからの多くのおしゃべりのために。(シャケ)

編集後記  
月並な言葉ですが、春は出会いと別れの季節。一応私は4月からもいます。(藤原)

きくち・しょういちさん ●昭和35年、大沢生まれ。建設会社に勤務し、農家を継ぐ。7年前よりリンドウを栽培。町の牧場の羊毛で糸・羊毛フェルトを始めたのが2年前、今では期間限定で羊毛フェルト教室を開く。